

## 第9部

# インフラ・住宅・環境

### 第1章 道路・運輸

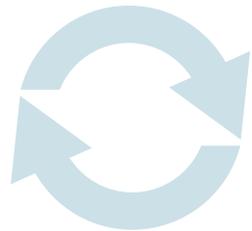
- 172 道路(道路実延長と道路舗装率)
- 173 鉄道
- 174 バス
- 175 公共交通機関におけるバリアフリー化

### 第2章 住宅

- 176 住宅の種類
- 177 1住宅当たり居住室数
- 178 1住宅当たり延べ面積(持ち家/借家)
- 179 着工新設住宅数
- 180 空き家数

### 第3章 環境

- 181 都市公園
- 182 自然公園利用者数
- 183 景観計画策定市町村率
- 184 公共下水道の普及率
- 185 ごみ排出量
- 186 ごみのリサイクル率
- 187 最終エネルギー消費量
- 188 再生可能エネルギーの導入実績
- 190 奈良県の気候の変化





# 道路(道路実延長と道路舗装率)

## 道路実延長12,804.6km



2022(R4)年3月31日現在の道路実延長は12,804.6kmとなっています。道路改良率は48.7%で全国45位となっています。

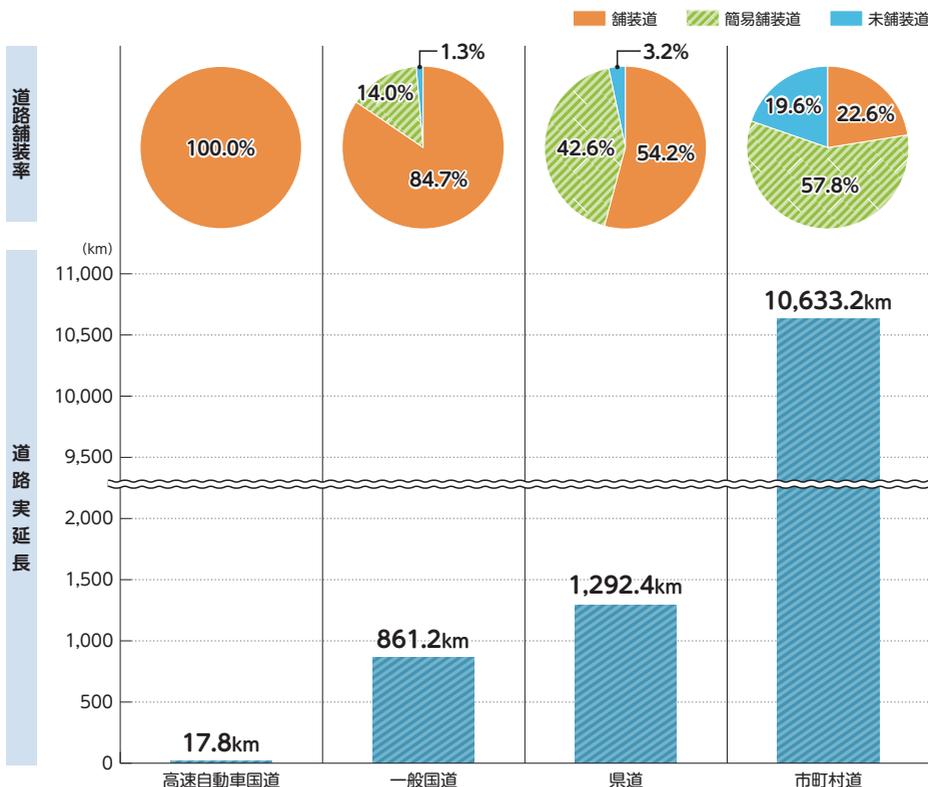
道路実延長の内訳は高速道路が17.8km、一般国道が861.2km、県道が1,292.4km、市町村道が10,633.2kmとなっています。このうち高速道路実延長は全国最下位となっています。

道路舗装率(簡易舗装を含む)は、高速道路は100%、一般国道は98.7%、県道は96.8%、市町村道は80.4%となっています。

- 道路改良率…道路の整備状況を示す指標で、道路の実延長のうち、幅員、路面等の構造について道路構造令の技術的基準に適合し、自動車のすれ違い走行が可能ないように改良された割合。高速道路・一般国道・県道は車道幅員5.5m以上の道路、市町村道は5.5m未満を含む。
- 道路舗装率(簡易舗装を含む)…(舗装道+簡易舗装道)÷道路実延長×100%

### 道路実延長と道路舗装率(2022(R4)年3月31日現在)

資料：国土交通省「道路統計年報2023」





# 鉄道

**JRの1日平均乗車人員：総数 7万6,351人**

**近鉄の年間乗車人員：総数 1億1,990万人**

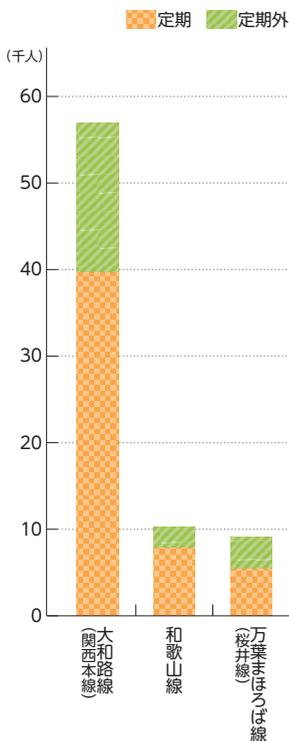


2022(R4)年度のJR輸送実績は、1日平均乗車人員の総数が7万6,351人で、前年度と比べ7.0%の増加、近鉄輸送実績は、年間の乗車人員総数が1億1,990万人で、前年度と比べて7.9%の増加となっています。

JRの輸送実績を1日平均乗車人員で路線別にみると、大和路線(関西本線)が5万6,938人で全体の74.6%、和歌山線は10,278人、万葉まほろば線(桜井線)は9,135人となっています。

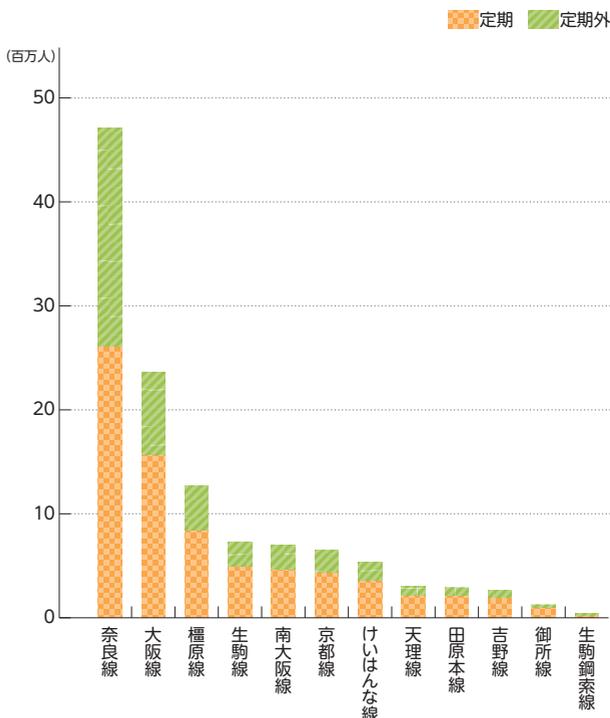
近鉄の輸送実績を年間の乗車人員で路線別にみると、奈良線が4,710万人、大阪線は2,358万人、橿原線は1,272万人、生駒線は724万人、南大阪線は703万人、京都線は654万人、けいはんな線は537万人となっています。

**JR路線別乗車人員**  
(1日平均:2022(R4)年度)  
資料:西日本旅客鉄道株式会社



**近鉄路線別乗車人員(年間:2022(R4)年度)**

資料:近畿日本鉄道株式会社



## バス

奈良交通バスの輸送人員 : 4,588万9千人

奈良交通バス実車走行距離 : 1,610万8千km



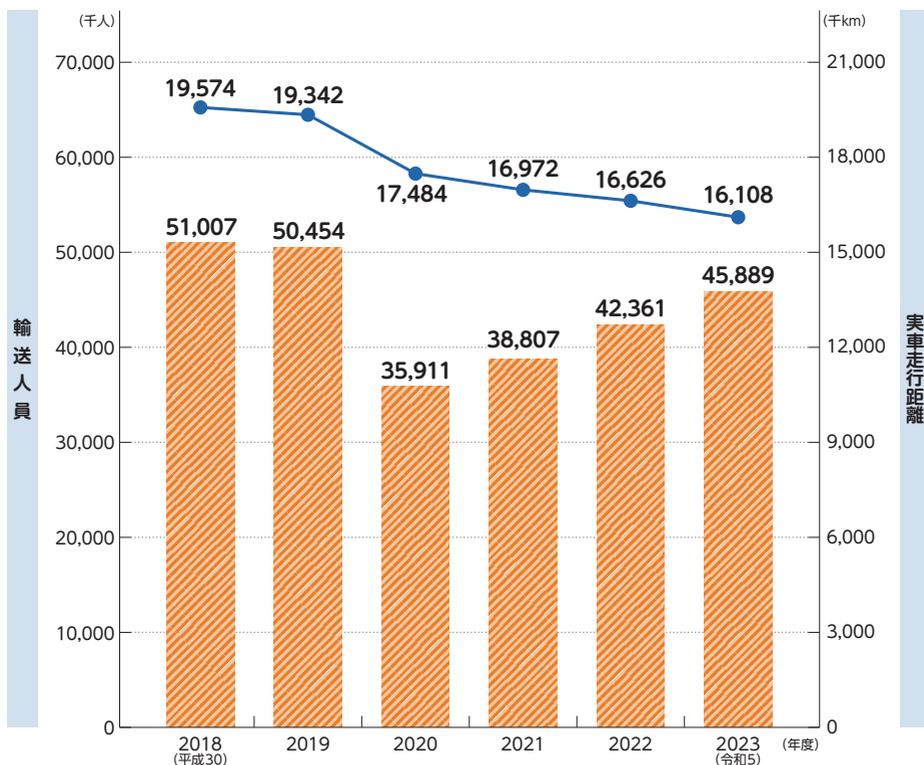
2023(R5)年度における奈良交通乗合バスの輸送人員実績は、4,588万9千人で、前年度と比べて8.3%の増加、実車走行距離は1,610万8千kmで、前年度と比べて3.1%の減少となっています。

2023(R5)年度の奈良交通乗合バスの輸送人員実績は、2018(H30)年度の5,100万7千人と比べて、10.0%の減少となっています。また、2023(R5)年度の実車走行距離は、2018(H30)年度の1,957万4千kmと比べて17.7%の減少となっています。

※乗合バスのうち、定期観光バス、高速バス、空港リムジンバスに係る実績は含まない。また、実績は奈良運輸支局管内のもの。

## 奈良交通乗合バス輸送実績の推移

資料：奈良交通株式会社





# 公共交通機関におけるバリアフリー化

**鉄道駅の段差解消率は87.7%※1**

**ノンステップバスの導入率は74.7%**



2022(R4)年度の県内鉄道駅の段差解消率は、87.7%で全国の93.6%を下回っていますが、引き続き段差解消に向け事業を進めています。

2022(R4)年度のノンステップバスの導入率は、前年度と比較して1.1ポイント増加し、全国の68.0%を上回っています。

※1 直近の1日当たりの平均利用者数を基に対象駅を算出した値。

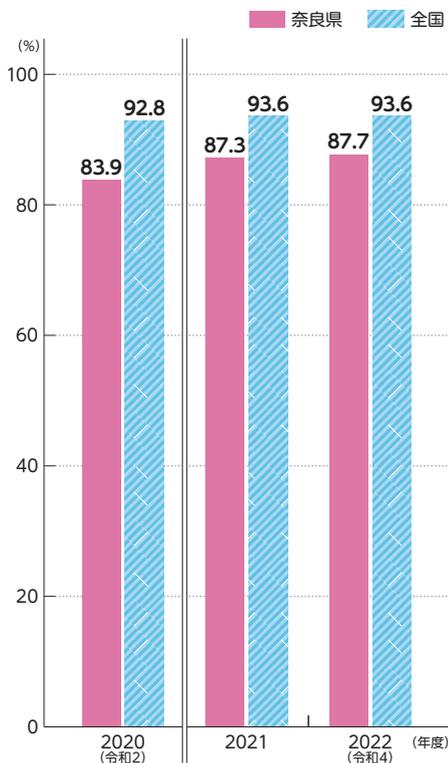
(コロナ影響前の2019(R1)年度時点の平均利用者数を基に対象駅を算出した値は82.8%)

※2 2021(R3)年度より段差解消率の算定方法が見直され、これまでの対象駅である「1日当たりの平均利用者数が3千人以上の駅」に「市町村が定めるバリアフリー基本構想において生活関連施設に位置付けられている2千人以上3千人未満の駅」を追加。

※3 ノンステップバスの導入率の値は、乗合バス対象車両数比。

## 鉄道駅の段差解消率の推移

資料：国土交通省、県リニア・地域交通課



## ノンステップバスの導入率の推移

資料：国土交通省、県リニア・地域交通課

